

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
文化財保存活用課	村田 雅之
生涯学習課	松本 優

重点目標	6 歴史・文化芸術を活かし、豊かな感性と郷土への愛着と誇りを育みます
基本の方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。

1. 施策の方向性

PLAN

1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実	① 京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。 ② 子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。 ③ 文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。
2. 地域の文化財の総合的な保存と活用	① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。 ② 京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。 ③ 京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。 ④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画に基づき、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。
3. 資料館施設等の整備充実	① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。 ② 児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。 ③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。 ④ 資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。
4. 文化芸術活動の推進	① 「京丹後市文化芸術振興計画」に基づき、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。 ② 市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市文化財マスタープラン	市内に所在する多岐にわたる文化財を適切に保護し、その中から特に学術的に重要で、まちづくりの観点からも価値が高いと判断される史跡等文化財に対して、保存及び活用整備をすすめるための方向性を示すもの	平成18年10月	計画期間の定めなし	
国史跡網野銚子山古墳整備基本計画	「丹後王国」を代表する国史跡網野銚子山古墳に関して、京丹後市史跡整備検討委員会を組織して専門的な立場、地元の立場からの検討を加えて基本計画を策定した	平成23年3月	当面の計画として概ね6年間	当面整備計画として概ね6年の計画も策定
京丹後市文化芸術振興計画	市民が主体となって文化芸術活動に取り組み、楽しみを感じられる文化芸術のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するために策定	令和5年3月	令和5年度～令和14年度	
京丹後市文化財保存活用地域計画	「丹後半島」における多彩な交流・交易、人々の暮らしが生み出した歴史文化や文化財を「光」ととらえ、「光」を未来につなぐ誇りあるまちづくりを進める指針とするもの	令和4年12月	令和5年度～令和9年度	

2. 主な取組と構成事務事業一覧		PLAN	DO	※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照		CHECK	ACT
1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実				決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み				R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓ 事務事業名称・事業内容(実績) 担当課							
① 京丹後市の歴史・文化・自然等を活用した学習を充実するため、小中一貫教育による「丹後学」を積極的に展開します。特に、世界ジオパークに認定された山陰海岸ジオパークの地質遺産を活用し、小学生を対象にフィールド学習を実施します。							
② 子どもたちが地域の人々の仕事や生き方にふれることは、地域を再発見することにつながります。学校支援ボランティアや丹後の歴史に精通した京丹後史博士等を活用し、地域の人々が学校園の教育活動を積極的に支援する体制を拡充します。							
③ 文化財セミナーや京丹後史博士育成講座、文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実します。また、京丹後史博士等の人材活用を図り歴史文化財の普及啓発に努めます。							
1. 豊かな歴史文化等を学習する機会の充実				決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み				R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓ 事務事業名称・事業内容(実績) 担当課							
1 郷土資料館管理運営事業 文化財保存活用課							
市内で収集を続けている民俗資料等を収蔵・調査・公開する資料館として、来館者に本市の文化を紹介し、文化財保護、啓発を図る拠点施設に位置付けており、資料館内外の収蔵資料の調査や整理を行うとともに、学校教育とも連携を図りながら、市内の児童生徒へ向けて郷土の歴史への関心を高める役割も果たす。				2,756	2,173	1,716	現状維持
2 古代の里資料館管理運営事業 文化財保存活用課							
丹後古代の里資料館は、市内の考古、歴史資料を収蔵・調査・公開する資料館であり、来館者に本市の文化財を紹介し、文化財保護、啓発を図る拠点施設として位置付けている。また、学校教育とも連携を図りながら、市内の児童生徒へ向けて、郷土の歴史の関心を高める役割も果たす。				13,246	13,353	15,913	現状維持
2. 地域の文化財の総合的な保存と活用				決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み				R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓ 事務事業名称・事業内容(実績) 担当課							
① 市内の貴重な歴史・文化等を保護し後世に伝えるため、文化財の管理や建造物等の修繕、郷土芸能の道具の更新、映像記録作成等を通して文化財の保全と活用を図り、伝統芸能を継承していきます。							
② 京丹後市史編さん事業や発掘調査等の文化財調査での成果や刊行物を基に、郷土の文化財を活用し市内外の人々の理解を深める活動を進め、地域づくりに活かします。							
③ 京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境を活用して、丹後の優れた文化財、調査成果について発信していきます。							
④ 古代丹後を代表する網野銚子山古墳、赤坂今井墳墓等の史跡をはじめ、地域文化財の総合的な保存と活用を進めることで郷土への誇りと愛着を培います。併せて文化財保存活用地域計画を策定し、丹後の輝かしい資産を観光や地域振興に積極的に活かします。							
3 指定文化財等管理事業 文化財保存活用課							
市内に所在する貴重な文化財を後世に残すために、修理や保全に係る事業に対して補助金を交付するとともに、180件を超える市内指定文化財(国、府、市指定文化財)等を適切に維持管理し、看板設置などにより指定文化財等の普及啓発を図る。				6,737	11,943	9,927	現状維持
4 遺跡整備事業 文化財保存活用課							
地域の特色と歴史を物語る重要な史跡等を、教育、観光、地域づくりの資源として有効に活用するため、史跡整備を推進する。網野銚子山古墳の保存・活用に向け史跡整備検討委員会で検討を進め、令和5年度は史跡地内の整理伐採、墳頂部の補修盛土など、環境整備を実施する。				47,561	53,666	131,028	拡大
5 遺跡発掘調査等事業 文化財保存活用課							
市内に残る遺跡等の適正な保存・活用のため、開発に先立つ発掘調査を実施して開発事業との円滑な調整を図るほか、令和2年度まで実施した網野銚子山古墳の発掘調査の成果を報告書として公表するために、発掘調査の成果をまとめる整理作業を実施する。				5,253	4,642	2,602	現状維持
6 地域文化財総合活用推進事業 文化財保存活用課							
令和4年12月に文化庁の認定を受けた「京丹後市文化財保存活用地域計画」により、京丹後市の歴史文化や文化財を後世に伝えるため、市民遺産会議を立ち上げるとともに、京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会による進捗管理を行う。				4,860	5,227	651	現状維持
7 地域文化財総合活用推進事業【繰越】 文化財保存活用課							
市内に数多く残る文化財について、指針となる文化財保存活用地域計画の策定を行うことで、市の歴史文化の特色や課題を明らかにするとともに、その課題解決に向け教育、観光、地域づくり等の各分野が地域資源として有効活用につなげる。				692	-	-	
8 文化財保存活用基金 文化財保存活用課							
京丹後市文化財保存活用地域計画に基づき、本市の貴重な文化財の保存及び活用を進めることを目的に、「文化財保存活用基金」に積み立てを行うもの。				-	34,586	1	現状維持
3. 資料館施設等の整備充実				決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み				R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた今後の方向性
↓ 事務事業名称・事業内容(実績) 担当課							
① 市内の資料館施設で郷土の歴史や文化財の展示会を開催し、市民や市外の人々に、巨大古墳に象徴される古代丹後の輝かしい歴史や、それ以降の丹後の歴史、丹後ちりめん、文化財や鳴き砂、ジオパーク等について理解してもらうための普及啓発を図ります。							
② 児童生徒を対象とした社会科学習、郷土学習を進めます。							
③ 郷土の歴史や文化財の調査を進め特別展示、企画展を開催するとともに貴重な資料を保管し後世に伝えます。							
④ 資料館施設の整備充実を図り、市内外の人々が歴史や地域の文化財への関心を高める活動を推進します。							
9 郷土資料館管理運営事業《再掲》 文化財保存活用課							
市内で収集を続けている民俗資料等を収蔵・調査・公開する資料館として、来館者に本市の文化を紹介し、文化財保護、啓発を図る拠点施設に位置付けており、資料館内外の収蔵資料の調査や整理を行うとともに、学校教育とも連携を図りながら、市内の児童生徒へ向けて郷土の歴史への関心を高める役割も果たす。				-	-	-	現状維持

3. 資料館施設等の整備充実			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
	10 古代の里資料館管理運営事業《再掲》 丹後古代の里資料館は、市内の考古、歴史資料を収蔵・調査・公開する資料館であり、来館者に本市の文化財を紹介し、文化財保護、啓発を図る拠点施設として位置付けている。また、学校教育とも連携を図りながら、市内の児童生徒へ向けて、郷土の歴史の関心を高める役割も果たす。	文化財保存活用課	-	-	-	現状維持
	11 資料館等指定管理施設運営事業 琴引浜鳴き砂文化館において、本市の豊かな自然環境のシンボルである琴引浜の鳴き砂についての展示や様々な体験事業を実施し、普及啓発を行うとともに、世界認定されている山陰海岸ジオパークの拠点施設として、他の関連地域や施設と連携し積極的な事業展開に努める。	文化財保存活用課	8,770	10,204	10,329	現状維持
4. 文化芸術活動の推進			決算額(単位:千円)			事務の改善
主な取り組み			R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
① 文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、関係機関及び団体と連携し、地域の特色を生かした文化事業を行うとともに、市民の自発的かつ日常的な文化芸術活動を支援します。						
② 市民の豊かな心を育むため、丹後文化会館など関係施設を活用して、市民が優れた文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、丹後文化会館の改修に向け京都府に対し要望活動を進めます。						
	12 文化芸術事業《再掲》 「文化芸術振興計画(令和4年12月策定)」に基づき、市民の豊かな心を育み、生きがいのある生活を送ることができるよう、地域の生活文化を育て、ゆとりと潤いのある地域づくりを推進するため、各種文化芸術活動を支援する。	生涯学習課	-	-	-	現状維持
上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業			決算額(単位:千円)			事務の改善
事務事業名称・事業内容(実績)			R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた 今後の方向性
	担当課					
	13 文化財保護審議会委員設置事業 文化財の指定・解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。	文化財保存活用課	185	127	167	現状維持
	14 文化財保護一般経費 文化財の保護と活用を図るため、郷土資料館、丹後古代の里資料館以外に所管している文化財の収蔵施設等の維持管理を適切に行い、各種文化財保護関係団体の活動を推進する。また、市が所蔵する小牧源太郎の絵画を公開し活用を図る。	文化財保存活用課	345	2,281	-	統合(整理)
	15 文化財保存活用一般経費 文化財保管施設の維持管理及び各種文化財保護関係団体の活動を推進し、文化財の保護と活用を図る。	文化財保存活用課	-	-	329	統合(整理)
		計	77,159	124,849	156,750	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	学校・地域の連携により、京丹後市の歴史・文化等を学ぶ「丹後学」を進めるなど、子どもたちのふるさとへの愛着と誇りを育みます。また、市内の豊富な歴史文化資源の保護・活用に取り組み、資料館施設の整備充実と併せて、歴史文化について深い理解と関心を持つ人材の育成・活用を進めます。 また、市民や団体による主体的な文化芸術活動等を推進することにより、文化の薫り高いまちづくりに寄与します。							
	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
主な目標指標			年度		年度		年度	
	文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数	人	1,468 (5事業、17講座)	H25	668	R5	1,700	R6
	資料館、文化館入館者数	人	13,808 (3施設)	H25	10,685	R5	18,000	R6
	史跡整備	遺跡	6	H25	7	R5	8	R6
	京丹後史博士の認定者数	人	-		67	R5	120	R6
	文化協会加盟サークル数	団体	170	H25	112	R5	200	R6
	文化芸術事業の開催回数	回	-	R1	54	R5	100	R6
	京都府丹後文化会館利用者数	人	-	R1	27,122	R5	42,000	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK ACT

進捗状況区分	評価	令和5年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる		《文化財セミナー、京丹後史博士講座等の文化財事業参加者数》 新型コロナウイルス感染症の関係で、京丹後史博士育成講座は休止し、京丹後市文化財セミナーは2回開催した(155名)。このほか、外部からの出前講座等の対応を行った(21回、513名)。 今後は、セミナーや講座を通常通り開催し、目標値に近づけるようにしたい。 《資料館、文化館入館者数》 新型コロナウイルス感染症の5類移行により、丹後古代の里資料館・郷土資料館・鳴き砂文化館は、全体として前年度実績と比べ入館者は微増となった。 今後は、各館ともに対策を講じながら開館、事業実施を行い、集客増につなげていきたい。 《史跡整備》 網野銚子山古墳整備事業は、京丹後市史跡整備検討委員会の検討を進めながら平成29年度には環境整備基本設計を実施し、平成30年度より整備工事を進めている。 令和5年度は、検討委員会で検討を進め、史跡地内の整理伐採、墳頂部の保護盛土など、環境整備を実施した。令和6年度には完成予定である。 《京丹後史博士の認定者数》 令和5年度は講座を開催を1回実施した結果、認定者数が1名増加した。今後は、講座の内容を改編することを視野に入れ、令和6年度も開催予定。 《文化協会加盟サークル数》 コロナ禍による活動の停滞及び会員の高齢化等のため多くの団体が脱退した(加盟団体112団体)。そのような状況の中でも、各加盟団体が実施する教室や大会、市協会が実施する総合文化祭、サークル体験会を通じて、市民へ芸術鑑賞機会を提供することができた。今後も、市民が文化力を高め、加盟サークル数増加にもつながるよう協会を支援する必要がある。 《文化芸術事業の開催回数》 優れた文化芸術を鑑賞・体験できる機会の創出に努めたとともに、地域文化活動の普及・振興を推進し、文化芸術活動の充実を図ることができた。また、「京丹後市文化芸術振興計画」を適正かつ効果的に推進し、文化芸術によるまちづくりを具体的に進めるため「京丹後市文化芸術のまちづくり推進会議」が発足した。 《京都府丹後文化会館利用者数》 コロナ禍に落ち込んでいた入場者数は令和5年度によりやく回復の兆しが見えてきたものの、まだホール稼働率はコロナ禍以前の数値には戻っていない。近隣市町と連携し丹後地域全体での利用拡大計画を立てる必要がある。
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		
	▲	

5. 今後の施策展開の考え方(令和6年度での主な取組)

ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	令和4年度で策定した京丹後市文化財保存活用地域計画に基づき、庁内や関係団体との連携を図り、多面的な文化財の保存・活用を進める。また文化財セミナー等の講演会、資料館施設での様々な展示、体験事業を開催するとともに、出前講座への積極的な対応も行い、学習する機会の充実を図る。
	2	網野銚子山古墳の整備事業では、墳丘の補修、園路整備、周濠整備のほか、進入道路、駐車場等の整備を行う予定である。これにより、市民や外からの観光客に、日本海側最大の前方後円墳の姿を示し、地域学習や観光スポットとしての活用をはかる。
	3	丹後古代の里資料館、郷土資料館、琴引浜鳴き砂文化館を適切に維持管理するとともに、それぞれ収蔵資料の内容から機能分化し、市民や外からの観光客に、地域学習や観光スポットとしての活用を図る。
	4	市文化芸術振興計画に基づき、関係団体等と連携し、優れた芸術・文化の鑑賞機会の提供、地域の特色を活かした芸術・文化活動を実施並びに支援するとともに、文化活動を支える人材育成を地道に取り組む。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率 91.2 % (参考)当初予算額 2,161千円	部	教育委員会事務局												
	項	04 社会教育費					課	文化財保存活用課												
	目	05 資料館費																		
	事業	01 郷土資料館管理運営事業																		
基本計画 28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進			主な財源	使用料 郷土資料館入館料 25千円																
目的	市内で収集を続けている民俗資料等を収蔵・調査・公開する資料館として、来館者に本市の文化を紹介し、文化財保護、啓発を図る拠点施設に位置付けており、資料館内外の収蔵資料の調査や整理を行うとともに、学校教育とも連携を図りながら、市内の児童生徒へ向けて郷土の歴史への関心を高める役割も果たす。																			
主要な事務・事業の概要	豊富な残る市所蔵の民俗資料、古文書・典籍・書籍等の適切な保管・公開を行った。			【企画展示・イベント・見学対応】																
	○郷土資料館の維持管理、展示等に関する経費	2,173千円	<table><tr><td>期 間</td><td>タイトル</td><td>入館者数</td></tr><tr><td>R5.3.4～5.15</td><td>春季企画展「こどもの節句展」</td><td>60人</td></tr><tr><td>R5.8.10</td><td>夏休み体験講座</td><td>22人</td></tr><tr><td>R5.10.23～11.30</td><td>秋季企画展「むかしの装い」</td><td>29人</td></tr><tr><td>R6.2.1～R6.2.28</td><td>小学3年生「昔の暮らし」見学対応</td><td>133人</td></tr></table>			期 間	タイトル	入館者数	R5.3.4～5.15	春季企画展「こどもの節句展」	60人	R5.8.10	夏休み体験講座	22人	R5.10.23～11.30	秋季企画展「むかしの装い」	29人	R6.2.1～R6.2.28	小学3年生「昔の暮らし」見学対応	133人
	期 間	タイトル	入館者数																	
	R5.3.4～5.15	春季企画展「こどもの節句展」	60人																	
	R5.8.10	夏休み体験講座	22人																	
	R5.10.23～11.30	秋季企画展「むかしの装い」	29人																	
	R6.2.1～R6.2.28	小学3年生「昔の暮らし」見学対応	133人																	
	・維持管理経費	1,393千円	【入館者数・推移】																	
	（燃料、光熱水費、修繕、通信費、火災保険料）		<table><tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>75人</td><td>215人</td><td>321人</td><td>325人</td></tr></table>			R2	R3	R4	R5	75人	215人	321人	325人							
	R2	R3	R4	R5																
75人	215人	321人	325人																	
・施設保守管理経費（貯水槽、浄化槽、消防設備）	184千円	成果・課題 ○民俗資料・典籍等の公開、2回の企画展の開催、夏休み体験講座を実施するなど、昔のくらしや道具を中心とする民俗文化財について広く知っていただく機会を提供した。 ○市内小学校の社会科見学の受け入れを行い、実際に触れながら学び、学習効果を高めることができた。 ○常設展示の配置や展示資料の解説内容などの改善していくことが課題である。また、京丹後市文化財保存活用地域計画に即した食文化の展示なども検討する必要がある。																		
・施設警備委託料	86千円																			
・使用賃借料（コピー機借上料、テレビ受信料）	163千円																			
・その他事務経費（消耗品）	183千円																			
・原材料費（組紐体験用の材料）	5千円																			
・備品購入費（消火器1本）	5千円																			
・廃消火器処理手数料	1千円																			
・漏水調査手数料	153千円																			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費					99.8 %		
	目	07 文化財保護費	11,943千円		11,962千円	19千円	(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
	事業	02 指定文化財等管理事業					10,953千円		
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源	国補 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金 3,284千円				
					府補 京都府指定・登録文化財等補助金（1/2） 53千円				
目的			市内に所在する貴重な文化財を後世に残すために、修理や保全に係る事業に対して補助金を交付するとともに、180件を超える市内指定文化財（国、府、市指定文化財）等を適切に維持管理し、看板設置などにより指定文化財等の普及啓発を図る。						
主要な事業・事業の概要	○京丹後市指定文化財等補助金		14件	2,500千円	○指定文化財等維持管理費		1,124千円		
	(内訳)・国、府指定登録文化財補助金該当		7件	1,885千円	・国府市指定史跡等草刈委託料（神明山古墳ほか4件）		537千円		
	・京都府社寺等文化資料保全補助金該当		7件	615千円	・文化財施設環境美化委託料（竹野神社周辺ほか10件）		470千円		
	神社・寺院や覆屋等の修理、民俗芸能の道具の修理・新調などを支援。				・文化財施設光熱水費（丹後震災記念館電気代）		5千円		
	＜参考＞【令和4年度実績】補助件数：12件 補助金額：2,390千円				・指定文化財施設火災保険料（旧口大野村役場ほか4件）		35千円		
	○コウノトリ緊急対応関係経費			364千円	・土地借上料（史跡、文化財看板設置土地借上料）		3千円		
	国指定特別天然記念物のコウノトリが市内3か所で営巣したため、モニタリング監視員を置き、観察・記録を行うとともに、個体識別のための足環装着を実施した。（期間：令和5年4月4日～6月19日）				・震災記念館自動火災報知機維持管理（電話代、設備点検）		43千円		
	○湯舟坂2号墳出土金属製品保存科学処理委託事業			5,054千円	・郷村断層（樋口）樹木伐採委託料		31千円		
	・保存科学処理委託料			4,998千円	○文化財関連看板等工事請負事業		361千円		
	・協議旅費			56千円	・文化財説明看板修繕費（浜詰遺跡説明看板ほか1件）		129千円		
国指定重要文化財の湯舟坂2号墳出土品のうち破損等が認められる鉄製品等を保存処理し計265点分の安定台を製作する。（4か年計画の2年目）				・浜詰遺跡復元住居修繕		232千円			
○丹後震災記念館周辺樹木伐採及び絵画の補修			2,540千円	成果・課題	○市内に数多く残る文化財の保全のために修理等への補助金を交付し、文化財所有者等の負担軽減と貴重な文化財の保全を図ることができた。 ○コウノトリの営巣に伴い必要な保護活動を行い、コウノトリの個体保護に寄与することができた。 ○史跡や周辺施設等の環境整備を行うことにより、文化財の保全が図られ、文化財見学等の利用促進につながった。 ○文化財案内看板等の計画的な整備に努め、来訪者の利便性向上と文化財の保護啓発を図る必要がある。				
・樹木伐採委託料			1,023千円						
・絵画修繕料、運搬料			1,517千円						
(伊藤快彦作の油絵3点の修復、3か年事業の1年目)									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費					99.8 %		
	目	07 文化財保護費	53,666千円		53,752千円	86千円	(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
	事業	03 遺跡整備事業					53,884千円		
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源	国補 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（1/2） 20,525千円				
					市債 遺跡整備事業債（過疎債） 32,100千円				
目的	地域の特色と歴史を物語る重要な史跡等を、教育、観光、地域づくりの資源として有効に活用するため、史跡整備を推進する。 網野銚子山古墳の保存・活用に向け史跡整備検討委員会で検討を進め、令和5年度は史跡地内の整理伐採、墳頂部の補修盛土など、環境整備を実施する。								
主要な事業・事業の概要	○史跡整備検討委員会経費 201千円				○環境維持関係経費 714千円				
	・報酬	史跡整備検討委員会委員報酬 132千円		・委託料		網野銚子山古墳周辺下草刈委託料 714千円			
	(3回開催、委員15人)								
	・旅費	史跡整備検討委員会委員費用弁償 69千円							
	○網野銚子山古墳整備事業費 52,751千円								
	・旅費	文化庁調査官指導旅費、協議旅費 60千円							
	・需用費	消耗品費 24千円							
	・委託料	実施設計委託料 9,415千円							
		工事監理委託料 1,540千円							
		測量委託料 1,746千円							
	・工事請負費	環境整備工事費 39,966千円							
【令和5年度整備内容】 古墳及び周辺の整理伐採、墳丘の補修盛土、葺石復元、周溝表示				成果・課題	○網野銚子山古墳については、史跡整備検討委員会の指導を受け、古墳の保存・活用を図るための環境整備工事を進めることができた。 ○墳丘及びその周辺に関する整備工事は復元埴輪設置を除き完了することができた。				
国史跡網野銚子山古墳について、平成23年度に策定した整備基本計画に基づき、史跡の保存を図りつつ整備工事を行った。 ※京丹後市史跡整備検討委員会、文化庁等関係機関の指導を受け実施（令和6年度完成予定）									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	04 社会教育費	4,642千円		4,729千円	87千円	98.1 %	課	文化財保存活用課	
	目	07 文化財保護費					(参考)当初予算額			
	事業	04 遺跡発掘調査等事業					4,458千円			
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源	国補	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（1/2）			2,000千円	
					府補	埋蔵文化財緊急発掘調査費補助金（1/4）			1,000千円	
目的	市内に残る遺跡等の適正な保存・活用のため、開発に先立つ発掘調査を実施して開発事業との円滑な調整を図るほか、令和2年度まで実施した網野銚子山古墳の発掘調査の成果を報告書として公表するために、発掘調査の成果をまとめる整理作業を実施する。									
主要な事業・事業の概要	○網野銚子山古墳発掘調査経費			3,767千円	○田村関遺跡発掘調査経費			875千円		
	・会計年度任用職員任用経費（2人） （報酬、期末手当、共済費、費用弁償）			2,678千円	・会計年度任用職員任用経費（報酬、費用弁償）4人			491千円		
	・報償費（網野銚子山古墳原稿作成謝金）3人			110千円	・需用費（消耗品、燃料代）			23千円		
	・旅費（調査旅費、宿泊費、協議旅費）			36千円	・発電機借上料			26千円		
	・需用費（消耗品）			123千円	・重機借上料			311千円		
	・報告書印刷製本費（300部）			528千円	・水中ポンプ購入（1台）			24千円		
	・役務費（通信運搬費）			1千円	<調査概要>					
	・遺物写真撮影業務委託料			204千円	【田村関遺跡（現地調査 令和5年10月2日～11月9日久美浜町）】					
	・使用賃借料（パソコン借上料）			87千円	府営ほ場整備計画に先立ち、遺跡の広がりを確認するため16か所で調査を行った。6か所で、杭の検出や遺物の出土などが見られた。整理作業及び報告書作成は令和6年度実施予定である。					
	<調査概要>									
【網野銚子山古墳（整理作業のみ）】										
平成28年度～令和2年度に実施した発掘調査出土遺物の整理や、遺物実測図の作成・トレース、埴輪の復元作業、遺物写真撮影の委託、報告書原稿作成、報告書刊行作業等を実施した。成果は、令和6年3月刊行の報告書『網野銚子山古墳-整備事業に伴う発掘調査Ⅱ-』に掲載し、専門家に依頼し実施した埴輪の理化学調査や考察等も掲載した。										
成果・課題				成果・課題	○田村関遺跡（久美浜町田村）の発掘調査では、ほ場整備前に遺跡の広がりや遺構の深度等を確認することができた。 ○網野銚子山古墳（網野町網野）では、整理作業、写真撮影委託、報告書原稿作成及び専門家による執筆作業等を進め、報告書を発刊することができた。					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	5,227千円		5,422千円	195千円	96.4 %		課
	目	07 文化財保護費					(参考)当初予算額		
	事業	05 地域文化財総合活用推進事業	5,422千円						
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源	国補 デジタル田園都市国家構想交付金（1/2） 2,544千円				
目的	令和4年12月に文化庁の認定を受けた「京丹後市文化財保存活用地域計画」により、京丹後市の歴史文化や文化財を後世に伝えるため、市民遺産会議を立ち上げるとともに、京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会による進捗管理を行う。								
主要な事業・事業の概要	○文化財保存活用地域計画推進協議会開催経費（委員15人）		114千円						
	文化財関係者や商工・観光関係者等が参画する推進協議会を開催し、文化財保存活用地域計画による令和5年度事業に関する進捗管理を行った。								
	・委員謝金 半日×2回 （4,000円×延べ22人）	88千円							
	・委員費用弁償	26千円							
	○市民遺産会議開催経費（委員5人）		25千円						
	市民が後世に語り継ぐ歴史文化を認定する「京丹後市市民遺産制度」を令和6年1月に設立し、認定審議を行う市民遺産会議を令和6年2月に発足した。								
	・委員謝金 半日×1回 （4,000円×5人）	20千円							
	・委員費用弁償	5千円							
	○京丹後歴史文化めぐりマップ開設経費		5,088千円		成果・課題	○推進協議会や市民遺産会議の開催、京丹後歴史文化めぐりマップの開設により、京丹後市文化財保存活用地域計画で示した本市の歴史文化を掘り起こし広く周知するとともに保存活用をより一層推し進めることができた。 ○今後は、計画全体の評価方法の検討や、京丹後歴史文化めぐりマップのスタンブラー機能の活用等を推進する必要がある。			
	文化財保存活用地域計画に示した11のストーリーを紹介するデジタルイラストマップを作成し、WEB上で地域文化財の公開及び来訪者に関連文化財群の周遊を促す「京丹後歴史文化めぐりマップ」を開設した。								
・WEBマップ作成	4,883千円								
・看板用QRコード制作及び貼付け	51千円								
	・印刷製本費（チラシ、ポスター、カード）		154千円						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局			
	項	04 社会教育費	34,586千円	34,586千円	0千円	100.0 %					
	目	07 文化財保護費				(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課			
	事業	06 文化財保存活用基金				0千円					
基本計画		28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源	財産収入 文化財保存活用基金利子収入 1千円 寄附金 ふるさと応援寄附金 24,585千円							
目的	京丹後市文化財保存活用地域計画に基づき、本市の貴重な文化財の保存及び活用を進めることを目的に、「文化財保存活用基金」に積み立てを行うもの。										
主要な事業・事業の概要	京丹後市文化財保存活用基金条例を制定し、一般財源やふるさと応援寄附金からの積み立てを行った。										
	〇文化財保存活用基金積立金		34,586千円								
			(単位：千円)								
	令和4年度末 現在高	令和5年度中増減額				令和5年度末 現在高			成果・課題		
	①	繰入金 ②	運用利子 ③	積立金 ④		①-②+③+④					
		0	1	34,585	34,586						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局								
	項	04 社会教育費	10,204千円	10,205千円	1千円	99.9 %										
	目	05 資料館費				(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課								
	事業	03 資料館等指定管理施設運営事業				10,195千円										
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源												
目的	琴引浜鳴き砂文化館において、本市の豊かな自然環境のシンボルである琴引浜の鳴き砂についての展示や様々な体験事業を実施し、普及啓発を行うとともに、世界認定されている山陰海岸ジオパークの拠点施設として、他の関連地域や施設と連携し積極的な事業展開に努める。															
主要な事業・事業の概要	鳴き砂や環境保全の学習施設として設置し、指定管理者制度により、琴引き浜鳴り砂を守る会が管理運営を行った。環境学習のための教育施設であるとともに、山陰海岸ジオパークを紹介する観光施設としても重要な拠点と位置付けている。		【入館者数・推移】													
			<table><tr><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>6,055人</td><td>6,443人</td><td>7,692人</td><td>7,936人</td></tr></table>				R2	R3	R4	R5	6,055人	6,443人	7,692人	7,936人		
	R2	R3	R4	R5												
	6,055人	6,443人	7,692人	7,936人												
	○琴引浜鳴き砂文化館指定管理委託料		8,714千円													
	○使用料及び賃借料		1,287千円													
	・駐車場用地の一部にある民間土地借上料（518.81㎡）															
	・建物の所有者である公益財団法人日本ナショナルトラストへの建物賃借料															
	○備品購入（顕微鏡3台）		203千円													
	・ケニスズーム式実体顕微鏡1台															
・小型双眼実体顕微鏡2台																
		成果・課題	○各種視察受け入れやジオパーク関連事業、ガイド事業への支援・協力、「丹後学」をはじめとする市内学校の見学対応などを行い、京丹後市を代表する自然系の展示施設としての役割を果たした。 ○施設修繕を計画的に実施し、適正な管理運営に努める必要がある。													

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	127千円		213千円	86千円	59.6 %		
	目	07 文化財保護費					(参考)当初予算額	課	文化財保存活用課
	事業	01 文化財保護審議会委員設置事業					213千円		
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源					
目的	文化財の指定・解除等の諮問機関である文化財保護審議会で、文化財の保全及び活用について調査・審議を行うことで、市の文化財の保全や活用に資する。								
主要な事務・事業の概要	○文化財保護審議会の開催経費				86千円				
	文化財指定、市指定文化財の管理、現状変更に関する事項や、文化財関係事業等を検討するため審議会を開催。（委員定数：10人）								
	・報酬（半日×2回、4千円×延べ19人） ・費用弁償				76千円 10千円				
	○両丹文化財保護連絡協議会開催経費				41千円				
	令和5年度は与謝野町で開催（令和5年11月1日） 場所：与謝野町加悦保健センター「元気館」2階研修室 参加者：京都府北部の各市町の文化財に携わる委員及び担当職員 テーマ：「郷土の文化財に関する発表」 「郷土の文化財」に関する事例発表により情報交換を行った。また、海の京都DMOの福井誠氏に記念講演をいただき知見を深めた。								
	・報酬（半日、4千円×9人） ・費用弁償				36千円 5千円				
					成果・課題	○令和7年度に新規の市指定文化財を指定するために、審議会において意見を聴取し検討を深めることができた。 ○両丹文化財保護連絡協議会に参加し、各市町の事例発表を通して京都府北部の文化財を取り巻く課題について共有することにより連携を深めることができた。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	04 社会教育費	2,281千円		2,380千円	99千円	95.8 %		課
	目	07 文化財保護費							
	事業	50 文化財保護一般経費					2,948千円		
基本計画			28 芸術・文化を活かしたまちづくりの推進	主な財源					
目的	文化財の保護と活用を図るため、郷土資料館、丹後古代の里資料館以外に所管している文化財の収蔵施設等の維持管理を適切に行い、各種文化財保護関係団体の活動を推進する。 また、市が所蔵する小牧源太郎の絵画を公開し活用を図る。								
主要な事務・事業の概要	○文化財収蔵施設維持管理費（5か所） 資料館以外で所管している文化財収蔵施設に係る維持管理費 十楽収蔵庫（久美浜町十楽） 網野出土遺物収蔵庫（網野町網野） 旧成路分校（峰山町鱒留） 旧三重保育所（大宮町三重） 高嶋寮（丹後町上野） ・光熱水費、火災保険料、草刈委託料、消耗品費 ・消防設備等保守点検委託料			190千円 184千円 6千円	○高濃度PCB廃棄処理（網野出土品収蔵庫） ・PCB運搬料 ・PCB廃棄処理委託料 ○印刷製本費 小牧源太郎展チラシ・ポスター印刷製本費 会期：令和5年10月21日～令和5年11月12日 会場：大宮ふれあい工房 来場者数：436人				
	○文化財関係加盟団体経費 ・全国史跡整備市町村協議会・近畿地区協議会 ・全国鳴き砂ネットワーク ○事務経費 国・府との協議、研修会出席旅費、有料道路使用料 ・全国史跡整備市町村協議会臨時大会出席旅費（担当職員1人） 開催日：令和5年11月1日 東京都 内 容：陳情活動 ・文化財調査、協議等			70千円 50千円 20千円 79千円	○専門家現地調査謝金 市指定文化財候補の調査に関する謝金				
				成果・課題	○旧網野町時代の収蔵庫から高濃度PCBが見つかったため、安全のため廃棄処理を実施した。 ○文化財保護事務及び所管施設の維持管理を適切に実施し、文化財の保護と活用を図ることができた。 ○市が所蔵する小牧源太郎氏の作品を一般公開することで、文化財の普及啓発を図った。				